

松平康男元教授、日本気象協会東海本部長奥山態一氏に深謝するとともに、金属元素の資料をこころよく使用させていただいた日本気象協会小木曾正敏氏に対して感謝の意を表する。

文 献

- 1) David W. Menzel and Jane P. Sapaeth, 1962: Occurrence of Ammonia in SARGASSO SEA waters and in rain water at Bermuda. *Limnology and Oceanography*, 7, 159-162.
- 2) E. Eriksson, 1955: Composition of Atmospheric Precipitation *Tellus*, 7, 134-139.
- 3) 服部明彦, 1972: 窒素の循環. *科学*, 42(1), 20-28.
- 4) 三重県津地方気象台, 1971: 気象月報.
- 5) 松平康男, 1938: 南洋パラオ島の陸水並びに降水の化学成分について. *海と空*, 18(10), 358-365.
- 6) 松平, 川本, 1953: 気圧配置と降水の化学的性状について. *海と空*, 30(5, 6), 62-66.
- 7) 小木曾正敏, 1972: 三重県中南勢地区における降水及び降下塵の金属成分について. 公害と対策. 投稿中.
- 8) 菅原 健, 1948: 降水の化学. *科学*, 18(11), 485-492.
- 9) 菅原 健, 1964: 陸水の新しい化学的考察について. *用水と廃水*, 6, 227-230, 317-321, 359-364.
- 10) 浮田, 中西, 1971: 富栄養海域への窒素及びリンの流出量. *用水と廃水*, 13(11), 1355-1361.

(以下6ページの続き)

国の設備投資が盛んにやれば、民間の設備投資はおさえられてくるのですね。そうすれば、成長がおくれるわけですね。そこで、公害が減りましょう。それより、わたくしは、3年もたてば、超完全雇用になって物の生産ののびは止まりますよといっているんです。

だから、ローマクラブで、そのうちに酸素が地球からなくなってしまうなんて心配をしているという話がありますが、そんなことは人間への侮蔑だということです。

人間というものは、自分がいきるためにはあらゆる工夫をするものです。だから、人類がほろびるまで、ジェット機飛ばすはずはないのではないかとこの間いったのですよ。

それほど、人間はバカではないと思います。

神山：人間というものは、公害にそのまま手をこまねいていて、やられてしまうようなことはなく、必ず何か手を打つものだ——という点では、どうやら意見は一致するようですので(笑声)、この辺で話題を応用気象の本論に戻して話を結んで戴きましょう。

高橋：応用気象の内容は、昔から較べるとずいぶん変わってきています。もともと気象事業は、船に対する暴風雨の警報にありました。明治・大正にかけては、農業気象に重点がおかれ、最近では建築、工業立地に対する要請が多くなってきました。こうなると、気象庁としては、基本的な材料の整理と気象だけの知識ではなく、総合的な知識が必要になり、それに対しては、別途なことを考えていかなければなりませんね。

神山：千葉の銚子市外にあるウェザリング・テストセンターを訪れたのですが、放射計をはじめとする気象測器を見学したのです。それらは、気象台に備えつけられているものと較べると、ずっと近代化されていて、われわれ、気象人からみると、これはやられたわいと思いました。応用気象をやっているわれわれとしては、もっと境界領域にも気象事業として手をひろげてもらいたいと思います。

稲山：まあ、次元は違いますが、さきほどの、本州、四国の橋の作業も、風速が10mとなると作業をやめなければならぬので、もっと、目の細かい観測が必要になってきます。

また、雨の降り方一つとりましても、最近集中豪雨で、工場が水びたしになることがあります。また、湯水になってくると、工場にどうして水をやるかということに頭を痛めます。

大きな貯水池を持ってればいいかも知れませんが、それもありません。

そんなとき、50年とか10年とかの長いデータがあれば、対策をある程度、先にたてられますが、なにしろ、こんなときになると、気象庁だけが頼りになりますね。

神山：気象サイドに対して、この新年初頭にあたり産業サイドから、おおいに応用気象に、期待が表明され激励されたというところで、この放談を閉じたいと思います。

本当に、お忙しい時間をさいていただいたことを厚く御礼申し上げます。